

363 中央大学辞達学会

〔『法学新報』第24巻4（274）号 大正3年4月1日〕

○中央大学辞達学会 去る二月二十二日午後一時より中央大学辞達会（マ）にては同大学大講堂に於て演説会を開催したり当日は寒威厳烈加ふるに朝来の降雪霽るるに至らざりしにも拘らず来聴する者頗る多く定刻満員の姿と為れり此日出席の先輩は代議士中村敬次郎君、同法学博士花井卓蔵君並に同会副会長高崎介蔵君等にして弁士として坂本万作、三木善次郎、高木伊勢吉、奥田治良三、渡辺方英、浜口末喜、井上豊太郎、竹川清次の諸氏出席、刻至るや真塩丑之助君立て開会を宣し次て中村代議士は「青年と労働者」と題して慷慨なる演説を試みられ三木君は

「荒磯の月」と題し高木君は「進歩か退歩か我国」と題し奥田君は「窮民の叫」と題し孰れも孰烈なる快弁を振ひ最後に高崎副会長は「スタンダード」石油会社の設立者たるジョンロック、フエーラー氏の生立より石油精製事業に至るまでの有様を円転滑脱の妙弁もて演し立つれば満場の拍手湧くか如く其了るや時既に黄昏に及ひたれば数名の弁士を残して閉会したり（委員報）